

五所川原第一高等学校

「一高生が考える青森県の活性化策」



第1回高校生模擬議会参加 五所川原第一高等学校

平成29年2月9日(木)

1

一高生が考える青森県の活性化策

～青森県活性化大作戦～

五所川原第一高校 2年

台丸谷 吏紗	倉水 愛由美
田中 郁乃	黒川 美海
小田桐 愛海	福士 美玖
工藤 李佳	佐藤 大優
平川 創太	

私たちのテーマは「一高生が考える青森県の活性化策」です。(1)

2

提案理由

私たちはこれからの青森県をよりよいものとし、さらに活性化させるために、農林水産業と観光業に着目しました。

現状と問題点を調べ、私たち高校生の立場から企画を作ってみました。そして、最後に県議会議員への提案をまとめてみました。

私たちが大人になった時に、より魅力あふれる青森県になっていたらいいと思います！

私たちはこれからの青森県をより良いものとし、さらに活性化させるために、農林水産業と観光産業に着目しました。現状と問題点を調べ、私たち高校生の立場から企画を作ってみました。そして、最後に県議会議員への提案をまとめてみました。私たちが大人になったときに、より魅力あふれる青森県になっていたらいいと思います。(2)

3

青森県の現状

＜農林水産業のいいところ＞

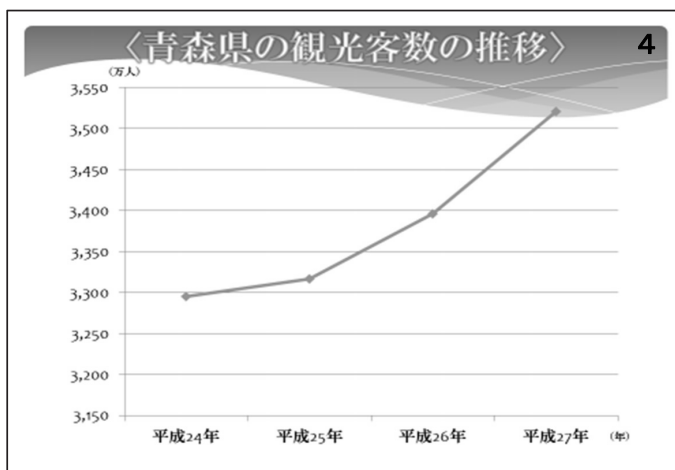
- ・ 夏季冷涼な気象
- ・ 豊かな水資源
- ・ 広く生産力の高い農地
- ・ 三方を海に囲まれた豊かな漁場
- ・ 第一次産業で働く人口の割合全国の3.1倍、漁業は4.3倍
- ・ 全国トップクラスの農産物生産量、漁獲量

↓

食料自給率118%

～全国4位～

青森県の農林水産業の現状は次の良い点が挙げられます。夏季冷涼な気象、豊かな水資源、広く生産力の高い農地、三方を海に囲まれた豊かな漁場、第一次産業で働く人口の割合は全国の3.1倍、漁業は4.3倍、全国トップクラスの農産物生産量・漁獲量があります。青森県が食料自給率118%で全国第4位であるのは、これらの良い点が関係しています。(3)



こちらのスライドは青森県の1年間の観光客数の推移を表したグラフです。ご覧のとおり右肩上がりで増加していることがわかります。平成24年から平成27年にかけての3年間で観光客数は約200万人増加しています。(4)

青森県は・・・ 5

- ・豊富な地域資源がある！
- ・観光産業も活性化しつつある！

↓

この二点から、青森県を更に活性化させるには
農林水産業と観光産業を組み合わせればよい
のでは・・・？

しかし・・・

＜青森県の課題＞ 6

- ✓ 人口の減少と担い手不足
 - 県外に若い人が流出
 - 高齢化
 - 新規就農者の受け皿が弱い
- ✓ 季節によって観光客数に差が生じている
 - 春・夏は桜やねぶたで観光客が多い
 - 秋・冬は集客力が弱い

⇒ 農林水産業と観光業とうまく連携できれば・・・

7

私たちは、生産者・観光業者の連携を深めることで青森県をより活性化させていきたいと考えました！

⋮

—高プレゼンツアー企画

テーマは・・・ 8

* 五感を使って青森県を体感するツアー

- ・見る(自然を目で楽しむ)
- ・聞く(フランス語に聞こえる津軽弁)
- ・嗅ぐ(深呼吸して自然の香りでリラックス)
- ・触る(自然に触れる)
- ・食べる(伝統の郷土料理を堪能)

以上の点から、青森県の良いところは次の2点が挙げられます。1つ目は地域資源が豊富であること、2つ目は観光産業が活性化しつつあること。この2点から、青森県をさらに活性化させるには農林水産業と観光産業を組み合わせればよいのではないかと考えました。しかし、青森県を活性化させるに当たり、問題点はいくつかあります。(5)

1つ目は青森県の人口が減少していることと担い手が不足していることです。原因としては次のことが考えられます。県外に若い人が流出していること、高齢化が進んでいること、新規就農者の受け皿が弱いことです。2つ目は季節によって観光客数に差が生じていることです。原因は、春、夏は桜やねぶたで観光客が多く、秋、冬は集客力が弱いなどが挙げられます。このような問題点はありますが、観光産業と農林水産業がうまく連携できれば、問題が解決するのではないのでしょうか。(6)


私たちは生産者と観光業者の連携を深めることで、青森県をより活性化させていきたいと考え、プレゼンツアーを2つ企画しました。(7)

全体のツアーのテーマは「五感を使って青森県を体感するツアー」です。1つ目は「見る」。これは青森県内の大自然を目で楽しみます。りんご園など他の地域にはない風景を見てほしいです。2つ目は「聞く」。フランス語のように聞こえる津軽弁を体感してもらいます。イントネーションの違いやアイヌ語と混ざってできた独特の方言を聞いてもらいたいです。3つ目は「嗅ぐ」。青森県の大自然で深呼吸をして自然の香りでリラックスします。りんごの香りや郷土料理などの香りを嗅いでみてください。4つ目は「触る」。自然に触れたり様々な体験をします。収穫体験や雪かきなどを通して自然に触れ

企画1 ☆秋の青森県再発見ツアー☆ 9
 ~シニア・就農希望者向け体験編~

東京駅発(8:20)新幹線はやぶさ
 ↓
 新青森駅到着(11:19)一高観光バスに乗る
 ↓
 昼食
 ↓
 岩木観光りんご園へ(13:00~16:00)
 ↓
 弘前城で紅葉のライトアップを見る(17:00~18:00)
 ↓
 土手町にある津軽三味線を聴ける居酒屋へ(18:00~20:00)
 ↓
 弘前市内にある「弘前屋」に泊まる……次の日へ続く

泊
二日



2日目スタート 10

津軽藩ねぶた村に向かい、金魚ねぶた制作体験(9:00~11:00)
 ↓
 弘前を出発し、青森市へ向かう(11:00~12:00)
 ↓
 青森市では三内丸山遺跡を観光(12:00~13:30)
 ↓
 新青森駅から東京へ(14:38~)

総額 約43,000円









企画2 ☆冬の青森県再発見ツアー☆ 11
 ~学生ボランティア編~

上野駅発(22:00)夜行バス
 ↓
 青森駅到着(8:20)
 ↓
 スキー体験(10:00~14:00)
 ↓
 民泊
 ↓
 青森県の文化に触れる……次の日へ続く

三泊
四日

2日目スタート 12

雪かきボランティア(7:00~9:00)
 ↓
 八甲田温泉・昼食(11:00~15:00)
 ↓
 青森駅周辺散策(のつけ井も美味しいよ)(16:00~20:00)
 ↓
 青森駅発(20:00)
 ↓
 上野駅(6:20)夜行バス

総額 約40,000円





てもらいたいです。5つ目は「食べる」。青森県の伝統的な郷土料理を堪能してもらいます。けの汁や貝焼き味噌など、他の地域には無い味を感じてほしいです。

(8)

まず、企画1は1泊2日の「秋の青森県再発見ツアー」と題して、シニア、就農希望者向けに企画してみました。1日目は新幹線はやぶさに乗車して東京駅を出発し、新青森駅まで行きツアーバスに乗って弘前市へ向かいます。昼食を弘前市内で食べ、その後、岩木観光りんご園でりんご狩り体験やりんごの食べ放題を楽しんでもらいます。夕方には弘前城へ向かい、紅葉のライトアップを鑑賞し、夜には津軽三味線を聞くことのできる居酒屋で夕食をとり、市内の弘前屋で1泊します。

(9)

2日目は弘前市内の津軽藩ねぶた村へ向かい、金魚ねぶた制作体験をしてもらいます。その後、青森市へ向かい三内丸山遺跡を見学し新幹線で東京に帰るという内容です。予算額は約4万3千円と少し高いかもしれませんが、青森県を五感で楽しめるツアーになっています。(10)

次に企画2は3泊4日の「冬の青森県再発見ツアー」です。こちらは学生ボランティアを対象に企画しました。出発は上野駅。夜行バスに乗り青森駅へ向かいます。青森駅に着いたら八甲田山でスキー体験をし、冷えた体を民泊の宿で暖めます。そこで地元の方との交流を通して青森県の文化や方言について知ってもらいます。(11)

2日目は朝に雪かきボランティアをしてもらいます。その後八甲田温泉へ向かい昼食を取ります。夕方から夜にかけて青森駅周辺を散策します。20時に青森駅発の夜行バスに乗車し東京へ帰るという長旅になります。予算額は約4万円です。

(12)

旅行の特典

13

◆クーポン券の配布 ◆ふるさと小包のお届け

- ・津軽塗りの食器
- ・ねぶたパック
- ・青森ヒバの石鹸、食器
- ・りんごジュース
- ・嶽きみ

・・・など

この2つのツアーについて私たちは次の特典を考えました。1つ目はクーポン券の配布。独自のクーポン券を作成することで集客力の向上を狙います。2つ目はふるさと小包のお届けです。青森県自慢の名産品を多くの方に知ってもらいたいので、ツアー終了後、自宅に届くようにすることで、参加者の周りの人にも青森県の良さを知っていただけたと思います。(13)

県議会議員への要望

14

- ①農林水産業の体験
→新規就農希望者向けに生産者との交流窓口設置
- ②観光業の活性化
→長期休業を利用した学生ボランティアを受入れのため自治体との連携
- ③訪日外国人観光客の増加
→姉妹都市との連携を深める

観光客のリピーターは多いので、初めて青森県に来る人の層を増やせばもっと観光客が来てくれるはず！

最後に私たちが考えた「青森県活性化大作戦」を成功させるために、県議会議員の方々に3点の要望をします。1つ目は農林水産業の体験を多くの方にしてもらうために、新規就農希望者向けの生産者との交流窓口の設置です。新しく農業を始めたい方と地域の生産者との交流の場を増やすことで新規就農者向けの受け皿を作ってほしいです。新規就農者は年々増加しているので、農業をしてみたいという人が農家の方と直接交流できる場が増えればもっと農業が活性化していくのではないかと考えました。また、その他の産業も同様に交流の場があればいいと思います。

ご清聴ありがとうございました！

15



2つ目は観光業の活性化のために、長期休業を利用した学生ボランティアの受入れのための自治体との連携です。雪かきボランティアは県内でも行っていますが、高齢者の多い地域に県外からの学生ボランティアを受け入れることで、県外の学生と地域の人との交流ができ、人と人との結びつきが強くなれば、その後も青森県に来る人が増えるのではないかと考えました。

の結びつきが強くなれば、その後も青森県に来る人が増えるのではないかと考えました。

3つ目は訪日外国人観光客を増やすために、姉妹都市との連携を深めてほしいです。姉妹都市との交流は毎年行われていますが、もっと観光業にも活かせるのではないかと思います。姉妹都市との交流を行うことで、青森県を外国の方に多く知ってほしいと考えました。

最後に青森県に来る観光客はリピーターが多いので、初めて青森県に来る人の層を増やせばもっと観光客が来てくれるはず。季節毎に違った青森県の魅力があると思うので、初めて来た人が別の季節にも来たいと思えるような魅力ある政策や、青森県に住みたいと思えるような政策を考えてほしいと思います。(14)

【質 疑】

●伊吹 信一議員（公明・健政会）

（伊吹議員）

学生ボランティアの受入のための自治体との連携というお話がありましたが、これは、皆さんがもしボランティアで青森県に来る立場で考えたときに、どのような役割を期待する御提案なのか、まずその点についてお伺いしたいと思います。こんなことをやってもらいたいというイメージで結構ですのでよろしくお願いします。

（回答）

もし自分達が青森県に来たときは、もっと青森県の魅力を知りたいので、青森県の自分と同世代の高校生の方と交流ができるような、そういうことをしてほしいです。先程提案したようなツアー企画のように、ツアーを地元の高校生の方と一緒に回れたり、一緒に観光の名所などに行けたりしたら、方言も同時に学んでもらえるなど、もっと青森県をアピールできると思うので、同世代の高校生の方と一緒に何かを試してみたいと思います。

（伊吹議員）

分かりやすい答弁ありがとうございます。

最後にお伺いしたいのは、訪日外国人観光客の増加の中で姉妹都市との連携を深めるというお話がありました。最初の質問のお答えでも、自分がその立場になったときに一緒に交流を深めたいというお話がありました。できれば訪日外国人観光客を迎える側になる、あるいはこちらから姉妹都市へ行くという体験も必要なのかなという思いで聞かせてもらいましたが、皆さんが受け入れる、あるいはこちらから行くとした場合、どのような国あるいは都市をイメージして提案していただいているのか参考までにお聞かせください。

（回答）

今話題のアメリカなどを想定していました。

（伊吹議員）

アメリカとの交流という提案ですので、県議会としてもそれを受け止めさせていただきながら、今後また取組を検討していかなくてはいけないと思っております。

つい先日、1月に県知事、県議会議長を中心とする韓国済州特別自治道への姉妹都市交流ミッション団に私も参加させていただきました。これからますますその地域の方々を知るためにお互いに行き、そしてまたこちらにも来ていただくという、相互交流の中で信頼関係を増し、その地域の産業や文化を知ってもらう必要性を痛感して帰ってきました。

私も県議会において、今回の提案を踏まえて、特に姉妹都市との交流、あるいは若い皆さん方の交流について、積極的に知事に提案をさせていただきたいと思います。今後とも県議会としても広報広聴活動も積極的に展開していますので、遠慮せずに「こんなことをもっと青森県としてやってほしい」、「自分達が誇りを持って夢を描けるような青森県になるようにこういうことに取り組んでほしい」というような希望でも結構ですので、あったらぜひひ寄せていただければと思います。今日は貴重な意見ありがとうございました。

くどう よしはる
●工藤 義春議員（自由民主党）

（工藤議員）

農林水産業と観光産業を結ぶと、これは非常に素晴らしいことだと思います。平川市にグリーンツーリズムに取り組んでいるNPO法人があります。中学校、高校の修学旅行者に農業体験をしてもらうという取組で、年間に何千人と来ているんです。その方たちは3、4人など、グループに分かれて民泊します。実際に農業の体験をしてもらう、その地域の家庭料理を味わってもらう、民泊してもらうということで、青森県全部でそのような取組があるのですが、特にそれが私の地元、津軽で増えています。これも観光ですよ。

ここで質問です。長期休業を利用した観光ボランティアというお話がありましたが、皆さんの中で、夏休みや冬休みなどでボランティアに行ったことのある方はいますか。

（回答）

私達のツアー企画はそのグリーンツーリズムの活動のことを知って、それを参考に作りました。

ボランティア体験のことですが、私が住む五所川原市金木町には斜陽館という太宰治の生家があるのですが、その向かいにある観光物産館で、私達若い人が物を売ったりして観光客と触れ合うという活動はしたことがあります。

（工藤議員）

非常に素敵なボランティアです。地域のことをよく知ってガイドをやる。例えば平川市の蔵巡りって聞いたことがありますか？これも高校生や大学生のボランティアガイドでまかっています。

最後に訪日外国人観光客の増加、これは県でも一生懸命、中国とも台湾とも韓国とも、チャーター便など、いろんな交流を深めています。ただ、迎えるにはそれなりのもてなしが必要です。当然迎える側になったら語学も覚えなければなりません。皆さん英語、韓国語、中国語、一つ選ぶとしたらどれを選びますか。

（回答）

私は姉妹都市のアメリカと交流したいと先程言いましたので、言ったからには英語をもっと学んで話せるように勉強したいと思います。